

地下5 cm から 30 m の世界

今春も連合大会にて**浅部物理探査**セッションを開催いたします。
演題の投稿をお願い致します。

- 大会名称** : JpGU – AGU Joint Meeting 2020 (日本地球惑星科学連合2020年大会)
(http://www.jpгу.org/meeting_2020/)
- 会期・場所** : 2020年5月24日(日)～5月28日(木) / 幕張メッセ
本セッションは**日本語**で行います。
- セッション名** : **浅部物理探査が目指す新しい展開** (区分: 地球人間圏科学)
- 開催日時** : ポスターコアタイム: **5月25日(月)午後**
口 頭 : **5月25日(月)午後**
- 演題の締切日** : **2月18日 17:00** (早期は**2月4日**。いくらか投稿料が下がります。)
- コンビーナー** : 青池邦夫 (応用地質), 井上敬資 (農研機構), 尾西恭亮 (土木研),
高橋 亨 (深田研), 横田俊之 (産総研)
- 共催 (予定)** : 公益社団法人物理探査学会

セッションの紹介 :

浅部の物理探査を用いている研究について意見交換をするセッションです。
浅い地下を計測をする場面は増えており、用途や道具が多様化してきました。

探査手法や探査対象についての制限はありません。

「**浅部**探査」の定義が業界により異なるため、探査対象の深度を「地表下5cmから30m」と、数字で示しておりますが、2インチから100フィートというわかりやすい数字に合わせたもので、厳密なものではありません。

研究手法も、理論、現場記録、室内試験、数値計算等、多様な方法を歓迎します。アイデア段階の研究も奨励します。

過去の開催では、他学会の物理探査関連の研究発表の場と異なり、多様な目的、対象、手法を混在させており、セッションの特徴となっています。

浅部の物理**探査**の特徴のひとつは、比較的簡単に検証や確認が行える点です。

物理探査の結果と他の記録との整合性が問われる場面が多いことと思います。

本セッションを利用し、探査・解析・解釈について様々な角度から、異分野の方との意見交換を試みられてはいかがでしょうか。

地下浅部は地下水、人工構造物、生物活動など、人間の活動圏に近い領域です。

物理**探査**という道具を用いて何が見えているのか。各分野の専門知識を持つ方々と意見交換を行える場となることを目指しています。



連合大会会場の様子



セッション開催挨拶



セッション会場の様子